

### 7 伊達輝宗公御花畠遺蹟



輝宗遺愛の御花畠として知られ、宮森城を築城した宇都宮氏広の開園ともいわれる。明治25年紺野安平がこの地を購入し同36年開園し「日涉園」と称した。安部井磐根が陶淵明帰去來の賦「日涉園以成趣」の文からとて名付けた。

### 8 三浦内平旧屋敷蹟



宮森橋付近。雷神社山下の小浜川氾濫に苦慮し架橋に尽力するも、盲目のため洪水の時に流され亡くなる。内平養子彌兵衛が文政年間に雷神山下の荒地を埋め立て新橋(座頭橋)を架し成田沢、古明神、反町を経て当市街地に至る600余間(約1km)の水路を開き防火灌漑の用に共した。

### 9 大河内宗四郎腹切石



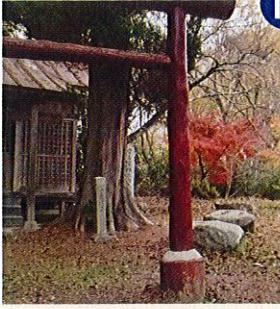
永禄12年(1569)慈現明神大祭の3月15日当日暁天宮森城主大河内備中らが大内備前、石川弾正らの急襲に遭い備中甥宗四郎は敵中を切り抜け城内に入ろうとしたが追いつがる敵に囲まれ進退きわまり、この石上にて腹きり切って討死にしたという。石の北側に文字の刻みがある。  
「おや大かく佐一周忌辰追腹 永禄十二年三月十五日 大河内宗四郎 二十二 うちしに申候」と刻まれている。

### 10 伊達輝宗公御膳清水



宮森城跡東のふもとにある。宮森城主の御用の井戸といわれ現在もこんこんと湧き出ている。

### 11 宮森城址(上館)



応永3年(1396)宇都宮氏広が奥州管領に任せられこの地に築城し四本松城といった。その後大河内修理が城を改築し宮森城と名付けた。天正13年(1585)伊達輝宗が二本松城主畠山義継に捕らえられた「粟ノ須の変」は当城において起こったのである。

### 12 伊達輝宗公遺愛櫻(競石作見櫻)



東中西の3株あり、花が著しく咲くと豊作少なきは不作という。東なるものは周囲1丈2尺(約4m)高さ3丈9尺(約13m)、中なるもの周囲1丈3尺5寸(約3.5m)高さ五丈(約17m)、西なるもの周囲1丈8尺(約5m)高さ3丈6尺(約12m)樹齢3~400年といわれた。朽ち果てたが孫桜が山競集会所脇に植樹されている。

# 小濱史蹟 名勝

二十七  
— 小濱青年道友会選定 —



詳しく述べてお問い合わせください  
岩代観光協会  
福島県二本松市小浜字北月山27  
電話 0243-651-2803

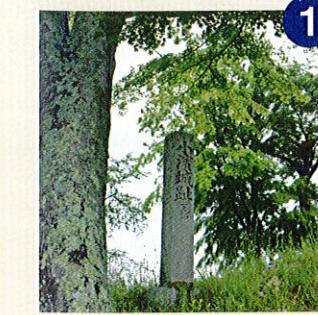


### みしらす柿のルーツ 西念寺柿

塩松郷首領の大内定綱が、小浜(現在の二本松市、旧安達郡岩代町)にあつて西念寺の住職・夕安上人(せきあんじょうにん)を中国に派遣した際、中國大原の玄中寺から持ち帰った柿が、西念寺柿として小浜の近隣へ植えられていたと伝えられています。その後、天正十三年(1585年)に小浜が伊達氏に攻められます。相馬(相馬氏)、二本松(畠山氏)、三氏(春(田村氏))の中間に位置し、南奥州制覇を目指すには大変重要な土地であった。この時代が安達地方にとって歴史上、最大の激動の時代であります。

大内定綱一族が会津へ退却し、その時に一緒に西念寺柿を会津へ持ち込んだとき、この西念寺柿は会津の土地にも合い、のちに会津の人々が改良しました。これが今の「会津みしらす柿」(見不<sup>見</sup>い)です。

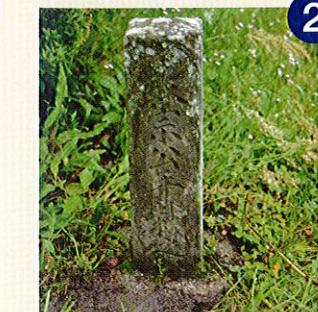
皇居への献上品として名高いみしらす柿ですが、その名前の由来は諸説あります。柿の木が重みで折れてしまふほど大きな実をたわわにつけける様を身の程知らず(身知らず柿)とする説や、あまりに美味しい柿なので身の程知らないとたくさん食べてしまう人間の程知らず(身知らず柿)とする説や、だかる美味しい柿を知らない。(見不知)たる説など、いずれの理由もこの柿の特徴です。



### 1 小浜城址(下館)

文明3年(1471)大内膳継の子・宗政が築城。当城の景勝が生国若狭小浜に似ていることから小浜と命名した。当地小浜の名の始まりである。

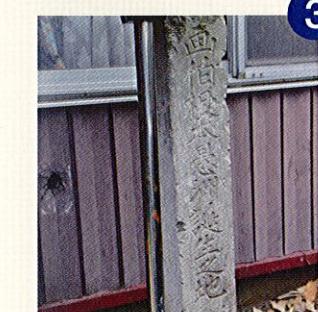
天正13年(1585)伊達政宗が1年間居城した。



### 2 伊達政宗公手植の松

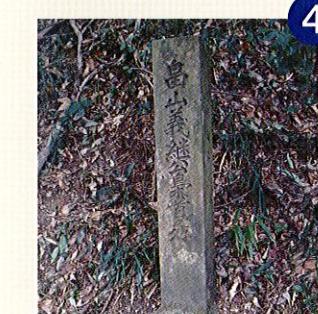
小浜城址北寄りの場所に1本の巨木の松があった。政宗御手植松として親しまれ、「一本松公園」と呼ばれた。

昭和60年松喰い被害により伐採され、輪切りにした松が岩代支所と岩代公民館に保存展示されている。



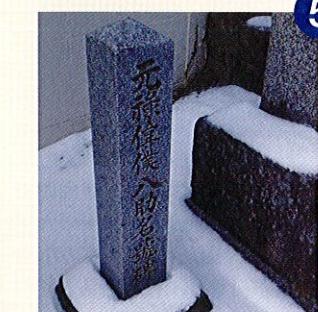
### 3 根本愚洲誕生地

小浜新町22番地。浜田屋佐五右衛門方で父良庵母民女の長男として生まれる。衣紋書きの腕が評判となり藩主丹羽長富公に認められ文政11年(1828)谷文晁の門に入れられ文映と号した。後に長崎で南画をおさめ号を愚洲、字を器と改めた。江戸藩邸で御側絵師として活躍した。



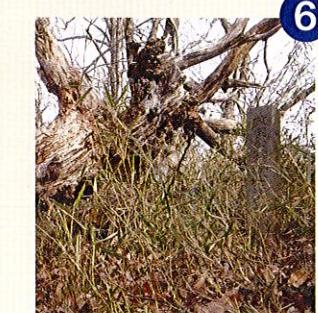
### 4 畠山義継公梶首之處

忍ヶ丘小浜城の追手門の前方。天正13年(1585)10月8日粟ノ須において伊達政宗が、父輝宗の仇畠山義継を討ち果たしその首をさらしたところといわれる。



### 5 元禄偉僕八助名号碑

佑天上人出世の恩人・赤穂浪士大石内蔵助の義僕。新町西念寺山門前に南無阿弥陀仏の石碑(宝曆9年建立)八助当町遍歷した折佑天上人の訃報を聞き大法会を修めたときのものといわれている。



### 6 伊達政宗公鞍掛松遺蹟

天正13年(1585)父輝宗拉致の報を聞いた政宗が馬に鞍を掛けかえ粟ノ須へ向かったといわれるところ。松喰い被害で枯れていたが根付いていた。しかし平成27年4月の強風で倒木した。

# 小濱 MAP

Obama



## 19 元小濱反町遺蹟

古明神から御花畠の間が碑柄町(反町の前身)だった。前述の元小浜鳥居町・藤町と同じく、元禄2年(1689)に町替えを行い、それを機に反町と改めた。

## 20 雲堂和尚梵字石

下長折川(旧稻荷山)高さ約6.1メートル幅5.5メートルの鉢形の大きな石がある。二本松城下の遍照寺の雲堂和尚の書といわれ、表面に大きな梵字が刻まれている。不動様の頭文字であるといふ。向かって左側に「南無一十大全 天和二壬戌年五月十六日 高野山雲堂老比丘書」と刻まれている。

## 21 八幡太郎義家舟繫石(駒繫石)

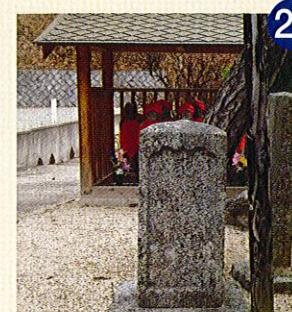
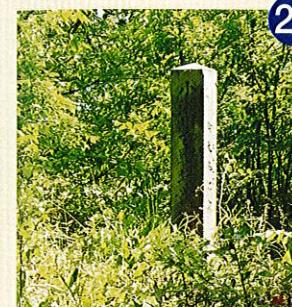
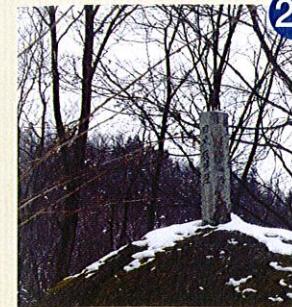
長折舟山内にある巨岩。前九年の役当地の豪族安倍氏討伐のおりこの一帯が霧で覆われ、源義家の馬軍や山並が舟のように見えたといふ。馬を舟にたとえ繋いだ巨岩とされ、馬の爪痕があるといわれている。

## 22 大河内宗四郎父大学夫妻殉死之處(片倉博奕石)

上長折片倉から秋田ヶ作に登るところ。2つの巨岩が相寄って洞をつくっている。道面に面したところに数十字文字が刻まれている。永禄13年(1570)3月15日大河内宗四郎父大学が宮森城下で討死にした宗四郎の1周忌に当たって夫婦刺しがいて相果てたところという。後年、よからぬ者が博奕のために利用していたために博奕石と呼ばれた。

## 23 十萬石山丹羽光重公展望之處

長折長杉にあり二本松城主丹羽公の領地十万石が一目につ見えるということからこの名がついたといわれる。丹羽光重公が御野立の場所と伝えられ眺望がよいところである。



## 史跡名勝を巡ることで見えてくるもの

●当方は古くは「塩松郷(しおのまつごう)」と呼ばれ奥州管領が居城した、歴史的にも由緒ある土地である。小浜青年道友会が郷土愛を注いだ史跡名勝保存顕彰石が建立されて、90年を迎える。この先人らがつくりあげた歴史の過程を探求し、さらに創造と研究を重ね次世代に伝承していく使命があるのではないか。

### 小浜青年道友会とは

●会長 本田欽二 / 副会長 菅野房一 / 顧問 平島郡三郎  
大正15年5月5日創立され青年同志が団結し精神修養に関する講座講演を開催し、昭和3、4年には昭和天皇即位御大典を記念し小浜の史跡名勝27箇所に史跡保存顕彰石を建立した。  
即位十周年を迎えるにあたり「小浜町郷土読本」刊行に協力した。また、自己修養社会教化郷土愛の振興に邁進した。

### 発行 | 岩代小浜の歴史と文化を護る会 2018.3

福島県二本松市(旧岩代町)小浜の歴史と文化を次世代に繋ぐために結成された団体です。先人たちの残した功績や想いを護ること目的としています。

〒964-0313 福島県二本松市小浜藤町63  
TEL 0243-55-2025 (大内理美容院 / 連絡窓口)

● 岩代小浜の歴史と文化をもっと知りたい! という方へ  
► 岩代小浜の歴史と文化を護る会では、会員を随時募集しております。  
※お名前、連絡先を添えて上記住所までご連絡ください。

表紙の写真は大正時代末期の街並み。

<このパンフレットは「市民との協働のまちづくり支援事業」の補助を受けて制作いたしました。>